

大阪商業大学

校友

会員と母校を結ぶ

校友会 会報誌

2011 No.12

—校友 第十二号—



このたびの東日本大震災により
被害を受けられた被災地の
校友並びに関係の皆様に
心からお見舞い申し上げます。



校友会
会長 高岸 暎治

ご挨拶

3月11日発生の東日本大震災で犠牲になられた方々と被災なされた皆様に、謹んでお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この地域にお住まいの大蔵商業大学卒業生は、約600名近くおられます。特に東北地方の沿岸地に在住の方々に、電話が繋がらず大変心配しております。

犠牲になられた方々に対しましては、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々には、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

浦安地域では、液状化現象で母屋が傾き、インフラが切断している状況で、校友が頑張っておられます。

二ヶ月以上経過した現在、刻々と変化する現場に復興の足音が力強く響きますことを祈念します。

阪神淡路大震災を大きく上回る被災に、日本人一人ひとりが真剣に取り組んで、この難局を乗り切る正念場が始まりました。

母校の建学の精神「世に役立つ人物の養成」が活きる2011年です。世に役立つ人物が非常に力を發揮できる余地は多いと感じます。

「他責の文化から自責の文化へ」「自立、自律」「他人への思いやり」「利己より他利の精神」「状況の分析化」「搖るがぬ行動力」など大切な人間力のキーワードです。

開学61年間で6万人近い卒業生が色々な分野で活躍なされております。校友の絆を強めましょう。

校友会の支部も全国に13活動しておられ、新たに支部設立の動きがあります。

多くの支部が出来ることは、誠に喜ばしいことです。
校友会の価値として、6つの核があります。

1. 校友間の交流力（親睦力・情報交換力・社会貢献力）
2. 母校との連携力
3. 組織力
4. 後輩学生への支援力
5. 財務力
6. 事業力（特別事業・会館運営）

20歳代から40歳代の若い校友にもっと積極的に校友活動にご参加くださいますように、仮称「校友会青年クラブ」をスタートしました。2010年12月に懇親会、2011年1月にもちつき大会などやりましたが、今後は理事会に諮り、次世代の人材を強化いたしていきたいと考えております。また学生との対話を増やしてまいります。

引き続き皆様のますますのご支援をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



大阪商業大学
理事長・学長 谷岡 一郎

「校友」の発刊に寄せて

去る平成23年3月11日、東北地方を震源とした東日本大震災は我々が経験したことのない被害をもたらしました。校友におかれましても、被害を受けられた方がおられるとの報に接しました。本学教職員一同を代表して、心よりお見舞いを申し上げます。

犠牲になられた方々に対しましては、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々には、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「校友」の発刊が12号を迎えたことをお祝い申し上げます。

校友の皆様には、校友会本部とともに支部の拡大にご尽力いただき、それぞれの地域で校友の輪を広め、または深め、本学の名聲を高めていただけるものと期待しております。

本学は今春、入学定員を上回る1,202名の新入生を迎えることができました。このような結果を得たのも、校友会のご尽力によるところも大きく、こころより感謝申し上げます。

本学は、「面倒見の良い大学」を標榜し「就職に強い大学」と評価される地歩を築いてきました。

さらにこの評価を高めるために、平成23年度から入学生を対象とした、学生自らの就業力を向上させる学生支援活動「就業力育成支援プロジェクト」をスタートさせました。この取組では、学生一人ひとりの学修状況ならびに自己開発活動などを統括的に把握する学生成長カルテを適切に運用することによって、学生生活全般にわたる支援体制の構築を図ります。

また、研究面においても、比較地域研究所、アミューズメント産業研究所、商業史博物館そしてJGSS研究センターがそれぞれのプロジェクトを推進することで研究機関としての業績を公表し、評価をうけるものと確信しております。

本学は、厳しい環境下にあっても、建学の理念に基づき高等教育研究機関としての責務を果たす活動をおこなっており、引き続き努めてまいります。

本学の取組をご理解いただき、ご支援いただきますようお願い申し上げますとともに、校友会のますますの発展を祈念いたします。

平成23年度 寄附講座報告

平成23年度第14回大阪商業大学公開講座
「地域社会と中小企業」という正規科目授業の中で
大阪商業大学校友会寄附講座が実施されました。



長谷川 忠博 氏
(昭和44年卒業)
藤原産業 株式会社
専務取締役

講義タイトル 「地場産業と市場開拓」

■開催日：4月28日(木)

1897年(明治30年)の創業以来、一貫して工具の商品開発と販売をされ、現在4兆円に達したホームセンター・マーケットを中心に、プロフェッショナルから一般ユーザーまで様々なユーザーニーズに応えるツール開発と販売を積極的に展開。「プロフェッショナルでも使える品質、一般ユーザーでも求めやすい価格」を商品開発の基本とし、よりよい住まいと暮らしを自らの手で創造する Do It Yourself なライフスタイルの実現に寄与されています。

【ご本人コメント】
兵庫県三木市は地場産業を大工道具とし全国でも有名です。歴史は1500年を有し現在まで発展してきました。しかし住宅着工の減少、建築工法、建築資材の変化、それによる道具の変化により低迷を続けております。

そのような環境下でも藤原産業(株)は113年歴史を有しながら成長しています。私は40年間在職いたし、入社以来約50倍に成長した我が企業のプロセスとキャリアから学んだことをお話しします。



中村 泰三 氏
(昭和56年卒業)
株式会社 なかむら
代表取締役

講義タイトル 「地域一番店への挑戦・そしてing…」

■開催日：5月12日(木)

創業から今日までの60余年にわたって時代の変化に対応しつつも、米穀専門店として自社ブランド米の販売展開をされており、地産地消は基より優良銘柄米の産地との契約栽培や直接仕入、自社精米、そして炊飯指導まで一貫した提案をされています。

【ご本人コメント】
地域一番店を目指した若き頃の夢や目標、挫折と成功、そして現在のビジョン。日本人にとって最も身近な食材である「お米」を通しての実体験をもとに地域社会との関わりや消費者気質の移り変わりなどもお話しできればと思います。

「米屋のおやじのひとり言」を聞いて一人でも多くの皆さんのが中小・零細企業に興味を持ち、安定した大企業や公務員だけが就職活動の選択肢ではなく、色々な人生設計がある事を一考するきっかけになれば幸いです。



小川 正夫 氏
(昭和38年卒業)
光昭ホールディングス
株式会社
代表取締役会長

講義タイトル 「日本の中堅企業の成長戦略と大学生の就活の正しい選択」

■開催日：5月19日(木)

大きな統合の波が押し寄せる電線業界において、企業間の競争を繰り広げてきたメーカーが統合され、巨大メーカーが誕生することで製造の状況も激変する中、同じような考え方をもつオーナー同士の強い意志確認を経て、より強力な企業となるよう合併を視野に入れた経営統合をスタートされました。「電線からITソリューションまで」エレクトロニクスの総合商社として幅広い事業をされています。

【ご本人コメント】
リーマンショック後、100年に一度の世界的な不況と言われるこの時期に、現在私が会長を務めている光昭グループの基となった、共に60年の歴史ある(株)光電舎と昭和電気(株)の2社が、何故経営統合を行い、新しい出発の決断をしたのかということと、また、中小企業の生き残り戦略として、講演に出席頂く企業関係者の方々にもヒントとなると同時に関東の大田区工業団地と共に比較される、「モノづくり」東大阪の中堅企業・工場密集地域の成長戦略と、夢のある企業団地にする為の幾つかの戦術をアドバイスしたいと思っています。

一方、当日受講頂く学生の皆さんには「大学生の就活の正しい選択」のテーマで、厳しいこの時代に太陽エネルギーを中心とした「第四の産業革命時代」に入るこれから時代、如何にして就活の勝ち組になるかを講義し、参考にして頂きたいと思います。

• 平成23年度 •
本部便り

平成23年

4月	2日… 大阪商業大学 入学式出席 23日… 平成23年度第1回常任理事会を開催 28日… 「寄附講座」を開催
5月	12・19日… 「寄附講座」を開催 20日… 兵庫御厨会 総会出席 22日… 広島県支部 総会出席 22日… 愛媛県支部 総会出席 28日… 関東支部 総会出席
6月	6月 校友会会報誌「校友」第12号発刊 4日… 愛知支部 総会出席 4日… 京都府支部 総会出席 11日… 平成23年度 第1回理事会を開催 12日… 高知県支部 総会出席
7月 8月 9月	
10月	28~30日… 大阪商業大学 大学祭「第60回御厨祭」出店参加 校友会と在学生、教職員、地域住民との交流を深めるため、各支部の地元物産などを好評販売へ。 10月 大阪商業大学 校友顕彰式典(開催予定)
11月	石川県支部 総会(出席予定)
12月	12月 学生五者団体との懇談会

先輩!!
「御厨祭」へ来てください!

10月 28 (金) ▶ 30 (日)

母校へGO!

第60回 大学祭実行委員会より



第60回
大学祭実行委員長
中廣彬人

みなさんはじめまして。第60回大学祭実行委員長の中廣彬人です。今年は、先輩方が御厨祭を初めて開催してから第60回目を迎えます。第1回目から今に至るまで御厨祭は様々な形で開催してきたと思います。今年は学友会本部、文化会本部、体育会本部、放送局の4団体が一つになり、100名を超える大所帯の大学祭実行委員会になりました。一人一人が大学祭実行委員会として、意識を共有して自覚ある行動をし、記念すべき第60回を素晴らしいものにしたいと思います。

今年の御厨祭のテーマは、「PIECE of PEACE」(ピースオブピース)です。実行委員だけでなく商大生一人一人が御厨祭の一つのPIECEになり、全員のPIECEを組み合わせて第60回御厨祭という大きな

パズルを完成させたい! という決意を込めました。そして最近、物騒なニュースも多く、東日本大震災で被災された方々に少しでも元気を届けたいと思います。平和について私達学生も考え、再認識する機会だと考えました。ステージ企画では実行委員の企画だけでなく、クラブ生にも企画をしてもらいたい学生はもちろん、商大生や校友会の先輩や地域の皆様も楽しんで頂ける大学祭になっておりますので、是非遊びに来て下さい。

お問い合わせは**大学祭実行委員会**まで Tel: 06-6781-8367

ご利用割引制度について校友会からのお知らせ

U・コミュニティホテル宿泊 30%OFF 割引制度

大学行事参加等によりU・コミュニティホテルをご利用される場合

「谷岡学園特別優待補助券お持ちの方に

30%の割引制度があります。

ご利用の際には校友会本部(06-6782-7243)までお申し出下さい。※ご宿泊利用のみとさせていただきます。



平成23年度理事会において
今年度の事業計画等が決定いたしました。
尚、今後の詳細につきましては随時ホームページにて
お知らせいたしますのでご覧ください。

平成24年

1月	1月 校友会青年クラブ(仮称) 餅つき大会
2月	2月 岡山県支部 総会出席予定
3月	3月 大阪商業大学 学位記授与式出席

平成23年 4月～ 平成24年 3月 校友会館への宿泊等貸出



学生五者団体との懇談会

学生と校友会の交流を深める

二度にわたる意見交換を(平成22年度)

現在、在学生4,881名が勉学中です。
学生は校友会の準会員です。

卒業と同時に校友会会員になられる仕組みですが、校友会と学生の繋がりが満足できる状況に至っておりません。

校友会と学生との接点は、10月の大学祭「御厨祭」への出店や入学式、学位記授与式など限られておりました。

そこで大学事務局のご尽力を賜り、学生との交流を深める活動を強化しました。内会議室にて新しいメンバーに選出された学生五者団体(学友会、体育会本部、文化会本部、放送局、応援団)の新役員と旧役員と旧役員と懇談し親交を深めました。校友会の活動内容や学生支援の在り方、学生の悩みや意気込みなど直に伝え合うことが出来ました。

今後もこのような交流を増やし、就職活動への支援や各地の校友会支部との交流も持てるようにしたいものです。



新春餅つき大会

校友会に若い息吹を

「校友会青年クラブ(仮称)」が本部前広場にて

平成23年、希望の新春。

御厨の地はすがすがしい新年を迎えました。約2ヶ月前、母校挙げての御厨祭りのあの盛況の余韻まだ漂う感が残る新しい年の1月9日の朝。記念すべき「杵音第一声」が大きく空を突きました。

午前11時30分。若き校友の要望により、「新春もちつき大会」がここに実現したのです。集ったのは実に幅広きメンバーの方々。校友会員、現役学生の皆さんに前校友会役員の代表、そして大学事務局ほか多くの職員の方々。そして校友会本部の会長・副会長も参加しました。

特に篠山学生課長からは20kg10杵に及ぶもち米のご厚志をいただき、大きな力を与えてくださいました。

杵音が一段と強まり高まるなか、若き校友会員、現役学生も加わっての威勢のよい掛け声は周辺に広まり、道行く市民もしばし歩を止め、笑顔の流れるシンもしばしば見受けられました。



このもちつき大会には文化部系、体育会系の指導者、旧会員各位も加わっており、そこでの対話の意義は大きく、「今後はもっともっと交流の場を」「あらゆる交流の輪を広げ母校発展への力に」、そして多かった女性参加の方々は「校友会に女性の声を広めよう」との声も加わり、総じて「これを機に校友会に若さを」「校友会の発展が母校一層の飛躍へ」との声となり、もちつき大会の空気は最高潮の域に達しました。外の空気は寒中ゆえ厳しきものがあったのですが、この若さ溢れるもちつき大会は春遠からじといった感さえ感じました。

最終の杵の音は、若く新しいみくりやの風となり上空へと舞い上がりました。

このもちつき大会は、今日のみで終わらないように思えてなりません。

世に役立つ人物養成は “自らの気づき”の支援から

本学の現状と今年度から新たにスタートした就業力育成の取り組みについて、
南方建明副学長、前田啓一経済学部長、富田和暉大学院地域政策学研究科長をお招きしてお話を伺いました。

●参加者

副学長・総合経営学部長
南方 建明 教授

経済学部長
前田 啓一 教授

大学院地域政策学研究科長
富田 和暉 教授

【司会】校友会 高岸 曜治 会長

教員と職員が一体となって 支援する新体制

高岸：大学の実学教育、就業力育成についてお聞かせください。

南方：就業力育成の取り組みは、過去様々な形で行われてきましたが、今年度の新入生から就業力育成支援プロジェクトを本格的に導入しています。まず、入学までに国語や英語の課題を出し、大学の学習に耐えられる力を身につけてもらいます。入学以降は、“学習習慣と生活習慣”で目標を立て、目標の実現に向けて、PDCAサイクル、Plan(計画)-Do(実行)-Check(振り返り)-Action(改善)を繰り返します。そして、建学の理念「世に役立つ人物の育成」並びに大学の使命・目的を支える4つの柱「思いやりと礼節・基礎的実学、柔軟な思考力、楽しい生き方」を基盤とした自分なりの“就業観と職業観”を形成してもらいます。明確な人生目標を自ら考え、個性を活かし長所を伸ばせるような職業選択ができ、就職後に自分に足りない能力に気づいた時にも、自らの意志で自己開発できる能力を身につけてもらうた

副学長・総合経営学部長
南方建明 教授

め、全教職員が一体となって学生の成長を支援するよう取り組んでおります。この取り組みは「指導」ではなく、あくまで学生が自ら意欲的に大学生活を過ごし伸びようとする姿勢、そして成長を「支援」することで、言うならば“自ら気づくお手伝い”をするというものです。

高岸：なるほど、気づくことのお手伝いでですか。

南方：就業力育成を支える仕組みは2つあります。1つは学生の履修や単位の取得、出席状況などを個人別にデータベース化した「学生成長カルテ」です。今年度から、携帯を用いて出欠を確認する仕組みも稼働させました。データは個人別に随時蓄積され、教員と学生の双方が出席状況を確認することができます。データベース化することで、学生自身が自分の学習結果や日常生活のリズムなど明確に知ることができます。自分自身を見つめ直すことができます。

そして次の目標を立ててもらい、また自分自身を見つめ直す。そして学生自身が目標を作り続け、意欲を持って成長し続けることが出来るよう、教員はそれを支援するためにアドバイスをするという取り組みです。

もう1つは「学生成長サポート調査（大商大型就業力評価指標）」というもので、社会人基礎力や大学の使命・目的を支える4つの柱に各学科のディプロマポリシーを加えた独自の指標を開発し、どれだけ就業力が身についたのか毎年調査して学生に分かりやすくフィードバックします。学生が自分の強み・弱みを知り、自らの成長過程を振り返ることができる仕組みです。いずれも4月から始め、1年生全員の取り組みが終わりました。

高岸：素晴らしい取り組みですね。講義や実習ではどのような取り組みをされているのですか。

南方：2年生から4年生対象のフィールドワークゼミナールがあります。教室で学んだ理論を現場で実践するためのもので、東大阪の瓢箪山商店街や貝塚の水間鉄道の活性化などがあり、1学年100人以上の

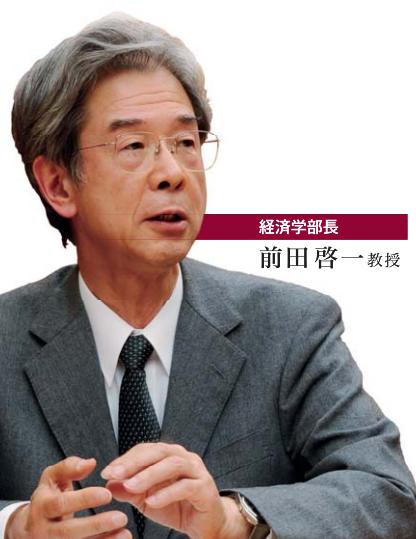


学生が8つのゼミで動いています。社会を学ぶ場を提供してもらうだけでなく、学生は社会の様々な問題を発見し、問題の解決策を考え、解決に向けて行動することにより、フィールドワークの場の提供先に恩返しをし、教員も自分の専門知識をもって恩返しをする。地域との交流が、地域貢献ひいては社会貢献に繋がるという、大商大ならではの貢献ではないかと思っています。

前田：1年生の基礎演習では3年前から1泊2日の宿泊研修を行っています。今の学生はコミュニケーション力が不足気味ですので、友達作りを一番の目的にしたもので、今年は福井県で行い、京都の妙心寺から青年僧が来てくださり、1年生1200人が座禅を組み、海岸清掃などをしました。従来の大学は個々の教育をよしとし、みんなと一緒に取り組むといった機会は少なかったのですが、全員で社会的な規範や一定のマナー、コミュニケーション力を学ぶ機会は大切です。

南方：ほかにも、起業家精神の育成に特化した入学後選抜のビジネスペイオニア（OBP）コース、ビジネスアイディアコンテスト、アントラボ、ベンチャー投資制度など多様なメニューがあり、いずれも意欲を持つ学生に応えるべくできたものです。また、キャリアサポート室では、平成21年度から3年生全員に1人あたり50分の面談を行い、就職に対する動機づけをしています。同室では、企業の方においでいただき大学独自の合同企業セミナーのほか、「マッチングセミナー」を実施しております。「マッチングセミナー」では、学生はグループディスカッションを行い、これを企業の方に聞いてもらいます。一方、企業にはそれぞれ自社のPRをしてもらい、これを学生達が聞きます。企業は学生に、学生は企業に投票し、それらがマッチすれば面接試験に至るというものです。

高岸：先日、学生が学長の言葉を入れたエチケットブランチを自分たちで作って売り、東日本大震災の義援金にしようとする姿を見かけました。そういう姿勢も自らの気づきであり、社会との接点ですね。



経済学部長
前田 啓一 教授

社会と世界へ向けて 広がる取り組み

高岸：今年は新しい研究棟が完成しましたね。

前田：本学の研究所は、1997年に従来の2つの研究所を統合した「比較地域研究所」に加え、2000年に「アミューズメント産業研究所」が開設されました。私が多少関与する比較地域研究所は、主にアジアと関西を切り口にしたもので、大阪の経済や企業は歴史的にもアジアと密接な関係があるので、もう一度整理してアジアとの接点を深めていきたいと考えています。これまでの取り組みとしては日中韓の3大学交流があります。東アジア各国の大学との間で国際シンポジウムを行い、今年度は御厨祭の期間中に中国の社会科学研究者と台湾の大学の研究者を招いて行う予定です。

高岸：それは楽しみですね。大学院の公開講座も大変好評を得ていますが、大学院についてお聞かせください。

富田：設立15年目を迎える142名の修了生を出している「地域経済政策専攻」に加え、2008年に設置された「経営革新専攻」の修士課程は、新たなビジネスモデルの創造とその担い手になる人材育成を目指すことを趣旨とする専攻で、社会人向けの大学院教育を併せ持ります。平日夜間、土曜日終日開講のカリキュラムで、現在18名の院生が在籍する人気のコースです。

大学院生の教育のほか、年間4つの公開講座とそれに準じたものを開催しています。昨年は中之島のサテライトキャンパスで「ビジネス研究講座」を開きました。これは、「我が国の企業に求められる経営革新施策について考える」というテーマの全6回の研究講座です。同講座は有料ですが、今年1月に本学で開いた「老舗企業に学ぶ経営革新」、昨年7月の「高齢社会の医療・介護・年金保障」など無料の公開講座も毎年開いています。

高岸：卒業生に他の大学院ではなく本学の大学院を希望してもらうためにも、公開講座を広く案内したいのですが、パンフレットの数が少ない。アプローチの仕方を検討していただきたいですね。

富田：本学の公開講座に来た人には次回の講座案内を必ず送るようにしたいですね。大学院もカリキュラムを変えたばかりで、グローバル経済論や経営品質論など新しい科目が増えています。大学院に行くのは大袈裟と考える人には、先ほど述べた研究講座もあります。講座案内は本学ホームページでも紹介しているので、参加していただきたいと思います。

社会に貢献できる 人材育成に向けて

高岸：校友会は就職を応援したいと考えていますが、それには学校との連携が不可欠です。兵庫御厨会では、学生が教員試験に合格できるように勉強会を開いたり教師の就職先を探したりと活動しています。OBも母校の力になりたいと考えているので、こうした動きが学校とより連携できるようにしていただけたらと思います。私が企業にいたころ、教育期間中の新入社員に「なぜ働くのか」と聞くとポカンとしている。働く意味や意義が分かっていないのです。まず、どんな仕事がしたいのか、何に生きがいを感じるのか、そこから分野を考えて会社を決める。決めたらまず社長の理念を聞けと。社長の理念がしっかりした会社を選んでほしいと思いますね。

南方：今のお話に関連して、働くことの意味をじっくりと考えてもらう時間が必要であると改めて感じました。今年度から開始した新しいカリキュラムでは、1年生後期の「キャリアデザイン入門」、2年生前期の「キャリアデザイン応用」において、自らの就業観・職業観の形成に向けてじっくりと考える授業を展開したいと思います。

前田：学生が一定の学力水準を持つのは当然ですが、誠実に仕事に取り組む信頼できる人間として、まず額に汗して働くことが大切です。本学には体育会系の学生が結構いるので、彼らを懇切丁寧に指導することで人から慕われる誠実な人材育成ができる。体育会に限らず、そういう人材を地道に育てていくべきであり、生活習慣から指導していかないと考えます。刺激を与え方向性をうまくければ、伸びる学生が相当数いると思います。先輩方にも一緒に学生を支援していただけたらと思います。

高岸：もちろん支援させていただきます。今日は貴重なお話をありがとうございました。母校の発展を感じ、願っています。



大学院地域政策学
研究科長
富田和暉 教授

三重県支部を訪ねて

| 三重県支部座談会 |

有志が語る歴史・魅力・将来

創立30周年を迎える三重県支部は、「伊賀忍者の里」で有名な伊賀市で産声を上げた。発祥の地・伊賀の『ヒルホテルサンピア伊賀』に集まっていた有志の皆さんに、30年を振り返るとともに、大学と校友会の更なる飛躍について語り合っていただいた。校友会本部からは、谷口楳佳副会長（会報編集委員長）、宇野幸三副会長（支部担当）が聞き手として出席した。

同窓の繋りが生み育んだ絆

支部発足から今までの取り組みと思い出をお聞かせください。

菅原：まず初めに、3月11日の東日本大震災において被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興を心よりお祈りしております。被災された方々の、励まし合い、支え合い、共に力を併せ頑張っておられる姿を通して、人の繋がりの大切さを再認識させていただきました。支部の皆さんには、改めて日頃の御礼申し上げたいと思います。

山口：支部設立のきっかけは、今から30年前の昭和56年のことです。ある時、広告会社から大商大卒業生の名刺広告を出したいと言われ、当時はまだ組織も出来ていなかったので、私の一級下の中田さんに相談して一度集まろうかと。当時の上野市と阿山郡のメンバーに呼びかけ、親睦を目的に20名位で集まったのが、支部の前身の「伊賀商大会」です。その後、中勢や伊勢志摩の皆さんに声を掛け、同年秋に津市の洞津会館で三重県校友会の発会式を持つことができました。本部のご協力をいただきながら30年が経ち、現在、会員数は540名。支部を北勢、伊賀、名張、中勢、伊勢志摩、紀州・その他の6地区に分け、各支部の皆さんにお力添えをいただいている。伊藤さんと中田さんには、当初から中心になっていたとき、荻田君は、最初に立ち上げた伊賀商大会の親睦会の看板を書いてもらつて以降、ずっと支部行事の看板を手掛けてくれています。

荻田：三重県北部は通学に時間が掛かるので、長い通学電車の中で先輩後輩が自然に親しくなります。私の場合、校友会とか全く意識なく、先輩後輩の20人位で一緒に飯でも食おうということで、昭和56年に「大商大・伊賀人会」を立ち上げたのですが、後に中田さんたちからお声を掛けていただき、校友会に合流させてもらいました。今では仕事などを通した様々な人の交流で、先輩・後輩で繋がっていたことを知る機会もあり、同窓の大切さを感じています。

菅原：私は病院関係の仕事をしていた関係上、異業種の方々との出会いの場が多く、同窓生のお世話になったりし、互いに助け合ってきました。同窓というのは本当に心強いものです。

荻田：支部の事業の中で一番大きいことは、10年毎に発行する支部の会報を継続して作っていただいていることです。中田を中心とした人々が参加して、名簿を作り、配布し続けているというのは大変ご苦労なこと。こうした力を貸してくださる方々がおられるからこそ、三重県支部が継続しているのだと思います。30周年記念にも立派な名簿を作っていました。

特化性を持つ知名度の高い大学に

就職などの支援には、大学と校友会の連携が不可欠になります。

山口：予備校の合格ランキングや新聞の入学案内に、大商大の名前を見かけないのですが、大学は宣伝に対してどのように考えておられるのでしょうか。

辻井：去年、読売新聞社が出した就職ランキングで大商大は92%とトップで、今年の志願者が増えましたが、大学には効果的な宣伝の仕方を検討していただけたらと思います。

吉川：就職が難しい今、大学側には経済団体へのアプローチもお願いしたいと思います。学校をPRしてもらわないと、どうしても埋もれてしまいます。三重県は、今まで西日本で関西エリアという位置

には、時間と資金的な裏付けがないといけません。そのためにも、電車の中での繋がりから始まつたように、人との繋がりを通して会員拡大を図る必要があります。

吉川：私は伊勢・志摩地区なので、伊勢志摩を中心に卒業生に入会を促しています。先日も総会の中で若返りを図る必要があるという話題が出ましたが、中小企業などの代表者が多いので、卒業後の就職問題などに校友会のネットワークを活用できるのではと。私は新しく入会した人とあまり繋がりを持っていなかったのですが、ある時、突然電話をもらったことがあります。逆に、そういう思いは私だけではもったいないので、皆さんもぜひ、後輩諸君に声を掛けてあげてもらいたい。先輩後輩の仲では苦言も出るでしょうが、それは後輩を思ってのことですし、これから卒業する彼らにも同じテーマで伝えることができると思います。

副支部長
兼名張市地区
代表幹事

辻本 俊志
(44年卒)

理事
辻井 賢隆
(44年卒)

副支部長
兼志摩・紀州地区
代表幹事
吉川 勝也
(50年卒)

支部長代行
山口 義美
(35年卒)

理事
荻田 哲郎
(49年卒)

理事兼事務局長
伊藤 良夫
(50年卒)

付けでしたが、今、伊勢志摩は中部エリアという位置づけになっています。そうなると、伊勢湾岸に面した地域は、自分たちの商業圏や採用に対して関西に背を向ける位置に値してしまい、大商大卒業生の就職に対してどれだけの意識を持ってくれているのかと疑問を感じます。校友会なり先輩たちが役に立ち、活動する場としても、商工会議所や観光協会に積極的に説明会をして入り込んでいただきたいですね。

辻本：これまでの企業は頭の良い人を取っていましたが、今、社長になった立場で思うと、元気な人が欲しい。商工会議所でも地元の学校へ就職斡旋をしていますが、受け入れ側の企業と教える側の学校の考えにギャップがあるのが現実で、期待して入った学生が現実とのギャップで挫折感を味わうというのです。スポーツなどで苦労した生徒のほうが、適応性があり離職率が低い。みなさん同じことを思っているのではないでしょうか。人を雇う時は、何かクラブに入っていたとか、特にスポーツをしている子を意識的に優先的に採りたいという気が起こるもので。我々建設業界は厳しいところで、朝早く夜遅いのが当たり前の職業です。どこの大学というより、面接重視になっています。そういう意味でも、後輩諸君は頑張っていると思います。

吉川：普通高校を出た生徒を採用すると、教育するのに4年は掛かります。そこで思うのが、大商大はどんなところがセールスポイントで、何を専門特化しているのだろうかと。教授陣には、専門特化したアナリストとして、ぜひテレビに出ていただきたい。学生時代に考え、行動をとるDNAがあるわけなので、専門特化した教育が受けられ、それを学びたいと考える学生が集う学園を作り上げていきたいのです。

らい、どこの地区でも活発に会合を催していくことに価値があります。それが、若い人が入会する機会に繋がるのではないかと考えます。

菅原：30周年を節目に、新しい人材の構築と育成で支部の充実を図りたいと考えていますが、それには運営資金となる財政的資金援助が必要です。若い人にお金の負担は掛けたくないで、まず支部内の地区を訪問して体制を強化し、受け入れの態勢を作らなければなりません。三重県支部の強い絆で、大商大と校友会の更なる発展に向けて尽力したいと思いますので、今後とも、ご支援を賜りますようお願いいたします。

（平成23年4月30日 収録）

伊賀上野 NINJAフェスタ



毎年春の時期になると、「伊賀上野NINJAフェスタ」と銅打ち、伊賀市街地と上野公園にて忍び装束に身を包んだ忍者の集団が往来する姿に圧倒されます。今年は3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被害にあわれた方を支援、応援するため「がんばれ東北」をキャッチフレーズにチャリティーアイベントとして開催されました。フェスタでは、毎年恒例の手裏剣打ち道場や吹き矢道場のほか、楽しい道場がたくさんあります。伊賀上野の町並みを味わいつつ、忍び装束を纏い様々な道場を巡ってみてはどうでしょうか。



兵庫県北摂支部

「地域発展に役立つ支部へ」

兵庫県北摂支部 支部長 原文隆（昭和31年卒業）

まずもってこのたびの、東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申しあげ、一日も早い復興をお祈り申しあげます。

全国校友の皆様には母校大阪商業大学の限りない発展を祈りつつ、各々の立場でご健勝にて、ご活躍のこととお喜び申しあげます。

私達の北摂支部にも数多く、ご支援を賜っておりますが、昨年10月実施された川西市長選挙、同時実施の市議会議員選挙に際し、市長選には当支部の大塩民生君が、市議選には同じく久保義孝君が共に再出馬され、大塩君は二期目の市長に、久保君は六期目の当選に輝く結果となり、引き続き共に市政発展、市民生活向上に全力投球されている次第です。校友会本部、母校大学関係各位、そして校友会会員様より賜りましたご支援に対しまして心よりお礼を申しあげます。

谷岡一郎学長が当会報、校友第11号「校友の皆様へ」のご挨拶で「支部が本部と連携されながら、それぞれの地域発展の要となれば、大阪商業大学の名を高めて頂けますものと期待をしております」とされており、私たちもこれを機に一層地域発展に役立つ道を求めてまいりたいと考えている次第です。

ご承知のように当支部は川西市、川辺郡、そして大阪の「てっぺん」と称され関西では余りにも親しみを込めて呼ばれる「能勢の妙見山」で知られる豊能郡をもって構成されております。今回はこの能勢で地域に根ざし、その発展に全力を傾け活躍されて来た、当支部副支部長谷林喜久治君（昭和40年卒）の幅広い活動の一端をご報告させて頂きます。

校友会理事
谷林 喜久治氏

この「能勢の妙見さん」は昔も多くの方がお参りになり谷林君は妙見山の信徒総代を実に9年の長きにわたり、今もその大役の任を続けられる一方で能勢町観光協会理事としても活躍されていることもあって、昨年11月14日放映のよみうりテレビ「バラエティショウ」にも出演され、地域での活躍ぶりの一端が放送されました。

字数の制限もあって能勢町固定資産評価審査委員はじめ他のご活躍については省略させて頂きますが、我等の北摂支部では市政の中央に2名の代表を送り、かつ谷林君の地域での活動を含め、会報「校友」連載の「みくりや風の北摂版」とし、地域発展に役立つ支部をめざし努めてまいりたいと考えております。

全国先輩支部のご教訓もこの際に賜りますことをお願い申し上げ、当支部のご報告とさせて頂きます。

関東支部

「頼りがいのある関東支部の更なる充実」

関東支部 支部長 岩野邦久（昭和39年卒業）

1. 関東支部の活動

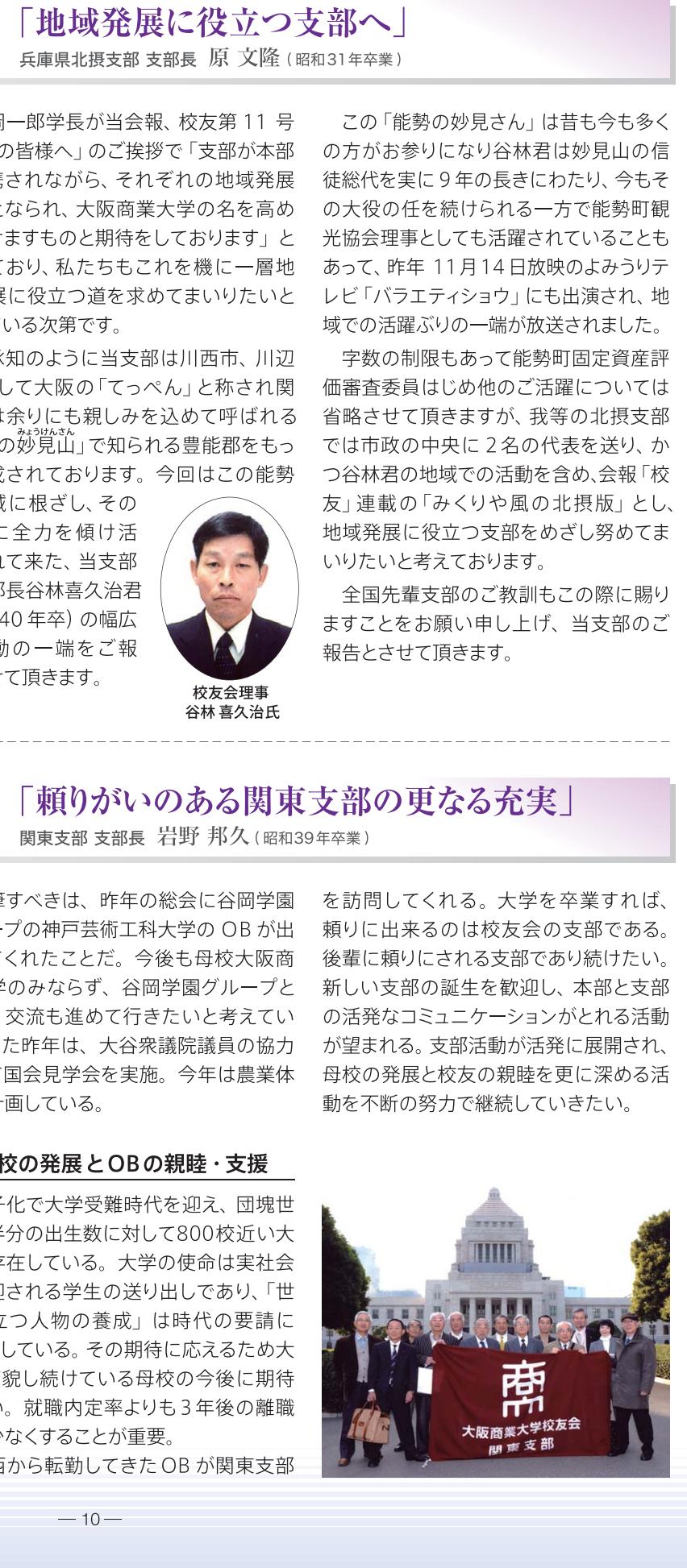
関東支部は創設以来49年目を迎える。本来のエリアは1都6県だが、東日本の校友に情報発信をするため静岡から北海道までのエリアを対象に年2回の機関紙「みくりや」の発信を続けている。支部活動は計画に基づいて運営を役割分担し、毎月の勉強会講師は校友が担当（マンネリ防止として外部講師も活用）、実社会で役立つ知識と教養、コミュニケーション力強化の内容で実施している。毎月の勉強会の後、幹事会、必要に応じて三役会を開催。この他プロ野球のOB応援、インカレベスト4に入り関東で開催のスポーツ応援、工場見学、親睦ボーリング大会をはじめ、他支部との交流を活発に展開（昨年度は京都支部の新年会、岡山・愛媛支部の設立総会に出席、今年は1月に京都支部、2月に岡山支部の新年会に出席）している。

2. 母校の発展とOBの親睦・支援

少子化で大学受難時代を迎え、団塊世代の半分の出生数に対して800校近い大学が存在している。大学の使命は実社会で歓迎される学生の送り出しであり、「世に役立つ人物の養成」は時代の要請にマッチしている。その期待に応えるため大きく変貌し続けている母校の今後に期待したい。就職内定率よりも3年後の離職率を少なくすることが重要。

関西から転勤してきたOBが関東支部

を訪問してくれる。大学を卒業すれば、頼りに出来るのは校友会の支部である。後輩に頼りにされる支部であり続けたい。新しい支部の誕生を歓迎し、本部と支部の活発なコミュニケーションがとれる活動が望まれる。支部活動が活発に展開され、母校の発展と校友の親睦を更に深める活動を不断の努力で継続していく。



沖縄県支部

「沖縄県(支部)の近況について」

沖縄県支部 支部長 前島明男（昭和41年卒業）



初めにこの度の『東日本大地震』により甚大な被害を受け、壊滅的な事態となりました被災地の皆様方にお見舞いを申し上げるとともに、お亡くなりになられました方々の御靈に謹んで哀悼の意を捧げます。

思い返せば当沖縄県支部も『阪神・淡路大震災』が発生した平成7年1月。遠い沖縄の地より思いを乗せ、母校のある阪神地区の方々を少しでも励まそうとの思いから義援金を送り、平成7年2月1日に正式に発足したのを、昨日のように思い出されます。

さて沖縄県支部の近況についてですが、平成22年5月26日に定期総会を盛大に開催。普天間基地移設先問題や、高校野球県代表「興南高校」の甲子園優勝の話題等で盛り上がり、大変有意な時間を過ごし閉会致しました。

しかし支部全体としての活動はこの総会のみで終始してしまい、毎年恒例の商大柔道部合宿激励会や、バスケ部関係者懇談会については担当OBのみの参加となり、会運営についてはやや不十分なものとなっていました。当支部も今年で16年目を迎え、近頃はやや停滞を感じているところであることから、先輩校友会の事例を参考に、少しずつ前進して参りたいと考えておりますので、色々アドバイスを頂ければ幸甚に存じます。

現在、沖縄県は更なる観光立県を目指し、仲井間県知事を先頭に「沖縄県カジノ構想」なるものを立ち上げ、カジノ誘致後の観光客数や経済効果、犯罪率や教育面への影響調査等、様々な観点から研究を重ねてあります。

その沖縄県への識者アドバイザーとして、国内カジノ研究の第一人者であります、我ら谷岡学長の意見が重要参考意見

として採用されており、全県的にも高く関心を集めていることを、皆様にご報告申し上げます。

谷岡学長をはじめ、諸先輩方が築き上げた建学の精神「世に役立つ人物」を念頭に、これからも当沖縄県支部は「大商大」の名を広く世に伝えて行きたいと微力ながら努力を重ねていく所存であります。

最後になりましたが、全国の校友会並びに大学の更なるご発展と、同窓会員皆様方の益々のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。



首里城

石川県支部

「平成22年度総会」

石川県支部 副支部長 杉本正一（昭和48年卒業）

このたび東日本大震災で被災された方に心からお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて平成22年秋の叙勲で石川県支部長廣澤郁夫氏が長年の消防団活動により、瑞宝単光章をいただき、石川県支部あげてお喜び申し上げます。

今回の総会は3回目で、校友会会长高岸暎治氏、校友会副会長宇野幸三氏、

大学からは学生課長篠山和義氏にご臨席いただき、会員19名と共に盛大に行われ、意見交換をいたしました。

は趣旨を理解し、是非参加したいとの声もありました。

今後の課題は、石川県では卒業生は約350名いますが、総会は20名～30名の参加です。もっと参加者を募りたいと思い、平成22年8月27日～28日にかけ、支部長廣澤郁夫氏、副支部長久保亮一氏で能登地区を廻ってきました。会員



勧誘の旅

富山県支部

「ご存知？きらりと光るまち北陸路高岡」

富山県支部 支部長 横田 安弘（昭和40年卒業）



富山県西部に位置するところに、人口約18万人の高岡市があります。私が生まれ育った街です。昨年、高岡市は開町400年を迎えた歴史と伝統のある町です。古くは天平の時代、746年に大伴家持が遠く奈良の都から越中の国守として赴任していたところであります。滞在中多くの優れた歌を詠みました。万葉集の中で大伴家持の歌は479首、そのうち223首が越中で詠まれた歌で、「越中万葉」としてひと

きわ光彩を放っています。この高岡が奈良、飛鳥と並び万葉の故地と言われる由縁あります。全国ではじめての万葉集に関する専門施設「高岡市万葉歴史館」があります。一度訪ねてみてください。

また、格子造りの町並み金屋町や土蔵造りの町並み山町筋などがあります。土蔵の町筋は国選定重要伝統的建造物群保存地区で明治時代の優れた防火建築は今にその姿を残しています。400年の歴史を持つ金屋町は今も昔の歴史を持つ面影を残す家が軒を並べてあり、石畳みの道との調和が懐かしさを漂わせ大正、明治のころと言ったところであります。また金屋町は今日の高岡の地場産業の基礎を築いた高岡銅鑄物発祥の地であります。銅器や漆器は嘗々として今なお息づく高岡の地場産業であります。

先般、5月1日は高岡で大きなお祭りであります「高岡御車山祭」が莊厳に執り行われました。7基の山車は花笠で華やかに彩られ桃山時代の伝統美を誇りゆっくりと巡回したところです。このお祭りは高岡開町の祖で加賀藩二代藩主前田利長が高岡城を築いた1609年、父の利家が豊臣秀吉から譲り受けた鳳輦（ほうれん・鳳凰の飾りのついた天皇の贈り物）を、当時町民に与えたのが始まりでした。山車は国指定重要有形民俗文化財であり、お祭りそのものは無形民俗文化財であります。

近郷近在県外から多くの方々が沿道を埋め尽くし、ものづくりのまち高岡が誇る伝統工芸の装飾美に見入りその技術に感動していました。これら先人たちが残した私たち故郷の財産であり大切な宝物であります。

もっともっといろんな方々に北陸路高岡へお越し頂いていろんな出し物を見て頂きたいものです。



高知県支部

「責任と情熱を持つことで物事は動く」

高知県支部 支部長 今西 清（昭和38年卒業）

このたびの「東日本大震災」におきまして、被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対しまして心からお悔やみ申し上げます。また、被災地の皆様の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、私ごとではありますが、6期24年間務めた高知市議会議員を今期限りで引退することといたしました。任期満了前の最後の議会となった3月議会では質問戦の最後に登壇させていただき、全国初となる県・市自治体病院統合の実現など、これまでの議員生活で私なりに困難な市政課題に関わり、解決してきた自負を踏まえ「責任と情熱を持つことで物事は動く」との思いを語らせていただきました。

話が大きくなりますが、わが郷土・土佐の歴史を振り返れば、責任と情熱で物事を動かした先人として、幕末に大きな志を持って活動し国を動かした坂本龍馬がいます。

昨年はNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放送により坂本龍馬が全国的に注目され、龍馬のふるさと高知でも「土佐・龍馬であります」を開催し観光客で大いにぎわいました。今年も、この「龍馬伝」の盛り上がりと土佐の高知への関心の高まりを継続させるため、3月5日から「志国（しこく）高知・龍馬ふるさと博」を開催しています。

志国高知は四国の高知を志（こころざし）の国として表現したもので、坂本龍馬だけでなく武市半平太や中岡慎太郎な

ど、他の維新の志士にもスポットを当てていくこととしており、この高知の「歴史（偉人）」に「花」「食」「体験」を加えた4つのテーマで、龍馬を育んだ土佐の風土を満喫していただこととしてあります。

東北での震災の影響もあり観光面では厳しい状況が予想されますが、前向きに動き元気を確保していくことが大切です。龍馬は暴風雨や衝突で大切な船を沈めてしまいますが、「おれは落胆するよりも次の策を考えるほうの人間だ」と常に前向きな姿勢で立ち直っています。

日本は全国で力を合わせて震災からの復興、経済の立て直しに取り組まなければなりませんが、高い志を掲げ責任と情熱を持つことで日本は立ち直ると信じています。

愛知支部

「ENGLISH HOUSE の思い出」

愛知支部 柴田 幸男（昭和43年卒業）

1946年春、大阪商大に入学が決まり、下宿を探しに学生課を訪れたところ紹介されたのが奈良県の生駒にあったESSの寮(English House)であった。

当時大商大のESSは100名以上が在籍し活動も活発に行われていました。その内40名程がEnglish Houseで寮生活を送っていました。寮の運営は学生自身に任せられていましたので、朝夕の食事の支度から風呂、掃除、その他運営も全て寮生達に当番が決められて交替で行っていました。しかし寮の規則は厳しく起床時刻から就寝時刻迄細かく決められていました。中でも一番厳しかったのが、寮内では全員一切日本語禁止というもので寮内アナウンスも全て英語で行われていました。日本語で喋った事が上級生にわかると罰金を取られるというものでした。

しかも寮の部屋割りは一部屋4人でかならず上級生が2人いましたから寮内で日本

語を話したら絶対にバレる仕組みになっていました。又起床時間に遅れても夕食の時間に遅れても罰金というものでしたので家からの仕送りの小遣いも1回生の時はほとんど罰金に消えてしまう程でした。しかも毎日夕食後は上級生・顧問の磯部先生他による英会話・英語劇・英語でのスピーチのレッスンが2~3時間行われていました。しかも私は顧問の磯部教授の車の運転を先輩と二人で仰せつかっていましたので2年間は全く遊ぶ時間がありませんでした。この様に厳しく、辛い毎日でしたが年に2~3回楽しい事もありました。それは寮のパーティーで行われる冬のクリスマスパーティー、夏のガーデンパーティー等です。いつもは男ばかりの寮に女性が入る事が許され、大阪女学院・帝塚山学園等から沢山の女子大生達が遊びに来てくれるのであります。又商大の軽音楽・ジャズ・ハワイアン等のバンドも呼んで大いに盛り上がったものです。3回生になると先輩から英語の家庭教師とかOLグループの英会話の講師等のアルバイト紹介があり、楽しい事も増えてきました。当時商大は関西英語連盟(KELU)に加盟

していて毎年KELUの主催する英語劇コンテストに参加していました。ここでも関西学院大学、関西大学等の強豪を押さえて数年間続けて最優秀賞を獲得していました。この時活躍した主なアクト・スタッフはほとんどEnglish Houseのメンバーで占められていました。これらは寮内の厳しい訓練の賜物であったと思います。しかし私が4回生になる直前に悲しい知らせが舞い込みました。それは学校側の事情でESS寮を閉鎖するというものでした。卒業後はEnglish Houseの経験を活かして先輩及び同期生は航空会社、商社等に多くの者が就職していますが、私は皆と全く違う税理士試験に挑戦し20代後半で合格し、その後税理士事務所で修業をし、現在は税理士事務所を開業し30年余りになります。(ちなみに大商大でのゼミは清水教授の簿記論でした。) 卒業後の歩む道は違っても3年余り同じ釜の飯を食った仲間はいいもので、現在になっても友情は変わりません。毎年OB会を開いていますがいつも沢山の仲間が集って来ます。

税理士として独立開業した時多くの先輩のお世話になりましたので、私もこれからは少しでも後輩のお世話をしていく事が務めだと思っています。



川村支部長 以下役員メンバー

京都府支部

「発足5年目の今後の目標と願い」

京都府支部 支部長 南 和男（昭和41年卒業）

京都府支部は、発足して早いもので4年が経ちました。その間いろいろ行事を行ってきました。総会、新年会、ゴルフ大会が主な行事です。利益集団でない和気あいあいとした共同体としてやってきました。

京都府支部はOBが2,000人、会員400名弱が加入しています。これを600名に増員する努力をしています。京都府支部は南北に長い為、北部、宮津、舞鶴、北丹後のOBが参加することが少ない為、この5月から会員を訪問して北部だけで集会を持ち分会を立ちあげたいと思っております。組織はリーダーの品性、徳に

よって大きくなっていくものだと思います。今後も会員の拡大と入会して良かった、愛校心がわいてきた、と言われる京都府支部にしたいと思います。会員の協力と御支援をお願い申し上げます。

さて東日本大震災で日本は戦後最大の死者と損害をもたらし政治の不安定、経済の不況がおこっています。東北地方の早い回復をお祈り申し上げます。

我々役員が「北斎」で話し合った中で、失われた20年と複合して更なるデフレ不況となるのを防ぐ為に何をするかと議論を致しました。1万円札を日本銀行が多く刷ることが金融政策として正しい。2~3%

のインフレーションにすることが重要であるとなりました。リーマン・ショック後、アメリカ、EUが早く経済回復し株価も高くなっています。浜田 宏一教授が『本当の経済学がわかる本』に書いています。ワルラス法則は均衡下でも不均衡でも恒等式として成り立つのですと、述べられています。又 1930年代の高橋金融財政のすばらしい成果が大不況から脱出することが出来たと述べられています。我々一同は経済の早なる回復を祈っています。その上、大阪商業大学もいろいろな経済の提言をおこなって下さい。期待しています。

兵庫御厨会 支部

「兵庫御厨会から全国に発信」

兵庫御厨会 会長 黒瀬 泰弘（昭和45年卒業）／神戸第一高等学校（参与）

全国教職員集まれ! 語ろう！結ぼう絆！

私ども「兵庫御厨会」は、大阪商業大学を卒業、修了し兵庫県内の教育職に携わる者の団体であり、平成16年3月に発足し会員は現在（99名）、今年で8年目を迎えました。

大学建学の精神「世に役立つ人物の養成」を理念とし、会員相互の交流と研鑽を深め教育のプロとしての「人間力」「教育力」向上に努めています。活動は理事会、勉強会、教育支援・大学・校友会各行事への参加、年一回の「全体会」を開催しています。

会員の中でも、教育行政に携わる者（県・市教育委員会）や教育管理職として活躍している者も多く、大学生への「教育職カウンセリング」や「勤務校の紹介」も実施しています。

教員採用試験
勉強会



また、教員採用試験に向け「勉強会」を毎年6月に実施し、昨年度は7名の参加者の内、3名が一次合格、内2名が二次を『合格』し、4月より教諭として県内小学校に勤務します。

さらに、高知、岡山、兵庫の3県で「御厨会交流会」を実施し、昨年度、第3回目の「交流会」を高知市で開催し、情報交換や交流を深めました。今年度は兵庫県淡路市で8月27日（土）に開催の予定です。大学・校友会、全国各地で教育職にご活躍の

皆様と共に「集い、語り、絆を深め合えれば」と願っています。どうぞお一人でも多くご参加下さいますよう案内申し上げます。詳しくは校友会本部、又は「兵庫御厨会」事務局までご連絡下さい。

最後になりましたが、大学関係者・校友会本部、各府県校友会支部、さらには全国の教育職関係者の皆様の、ますますのご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げ、ご案内とご挨拶とさせていただきます。

連絡先 「兵庫御厨会」事務局
事務局長：福田 義道
□電話：0791-67-1432

広島県 支部

「大震災と広島」

広島県支部 支部長 白井 勝秀（昭和39年卒業）

今年に入り東北・北陸・山陰地方の豪雪、3月11日東日本大震災、地震・津波、又福島原発の放射性物質の拡散で陸海と怯えている状況です。広島も原爆と云う恐怖におのゝく時代がありました。我々の年代では被爆した家族、友人は沢山います。半世紀以上経過して今も原爆症に苦しんでいる人がおられます。

しかし現在は平和都市広島として、経

済産業共に発展し立派に復興しています。今回の大震災で被災された地区の皆様に心より御見舞い申し上げます。

広島には世界遺産宮島「厳島神社」、本年3月迄続いた朝のドラマ“てっぴん”的尾道、龍馬ゆかりの福山“鞆の浦”と名所旧跡があり、校友会の皆様是非足をお運び下さい。

2月の支部理事会において前支部長 吉

田 祥三氏が辞任され後任に指名されお引き受けした次第です。支部会員の協力をえて支部又本部大学の発展に微力ながら尽くしたいと思います。

広島支部発足2年目、5月に第2回総会を学園都市として栄えている東広島にて行う予定です。

校友会本部及び各支部の発展と、今後一層の御指導の程お願い致します。

岡山県 支部

「校友会 岡山県支部が発足しました」

岡山県支部 支部長 永田 嘉男（昭和40年卒業）

岡山県は古く大和や北九州と共に吉備の国として二千年の歴史を持ち、吉井川・旭川・高梁川という三大河川があり、水の豊富なところで山には鍾乳洞があり、海には日本のエーゲ海、牛窓があります。そして四国に繋がる瀬戸大橋があり、四国と中国地方の交通の要衝、そして関西圏へと繋がる1千万人を超える経済圏の中心です。

大学の開学60周年に岡山県から参加した7人が協力し合い、約6ヶ月間で去年5月に県校友会支部設立。岡山県下の卒業生に連絡する方法として、地元山陽新聞に設立記念写真掲載。数人の協力者が増え、約980人の卒業生全員に文章で設立報告する事になり、今年の2月に「集い」を開催しました。参加者52人でしたが、大学から片山副学長・篠山学生課長・校友会本部の高岸会長・宇野副会長、そして



岡山県支部「集い」
平成23年2月27日
(於：アークホテル岡山)

各支部の参加を頂き、楽しい一日を過ごしました。

「集い」の内容としましては、岡山県の高校の教員中心で構成されている校友会「岡山御厨会」の先生方も卒業生の一員として参加され、念願の女性卒業生（大学院）大野慶子さんが参加し会場に一輪

の花が咲きました。
最後に年会費3,000円が満場一致で決定しました。

校友会岡山県支部は継続していくまでの皆様のご協力のほど宜しく御願いします。

愛媛県 支部

「御厨の地に 思いを寄せて」

愛媛県支部 副支部長 河野 広栄（昭和47年卒業）

大学を卒業して間もなく40年、歳を重ねるにつれ大学時代の友人や学舎の事を懐かしく思い出されます。

また以前、私の知人の子が大阪商大を卒業したと聞き、何となく心の中で喜びを感じた事もありました。

校友会の会報誌やインターネットで見る現在の母校は、目を見張るような発展ぶりであり、日々驚かされるばかりです。

各地で校友会が設立されつつある事は「校友」にて知っていましたが、平成21年の春に愛媛県でも設立の気運が高まり大いに賛同し、微力ながら運営に協力させていただいております。

県内の該当会員数は約780名と伺っており、まずは平成22年春の設立に向けて賛同会員の開拓を行うべく県内を3ブロックに分け、書面や電話にて連絡を取り合い、支部長を山下雄輔氏として約100名の会員にて設立の運びとなりました。

この設立までの1年間で事務局長としての工藤憲治氏のご尽力や、世代を越えた校友としての互いの協力や信頼関係の素晴らしさを感じた次第です。

各ブロックでの懇親会、ゴルフコンペの開催等の活動を行なうと共に、更に会員増強の為の情報交換を実施しています。また今後の活動方針として母校の見学会ツアーや講演会等も計画されており、御厨の地を再度訪れる事により時代の流れを実感致しました。

愛媛県支部も他県校友会との更なる交流を深め、母校の発展にも如何ばかりか寄与すべく活動をして参りますので、宜しくお願ひ申し上げます。



愛媛県支部「設立総会」平成22年5月23日(於：大和屋本店)

Photo だより

母校の姿に驚嘆

昭和36年卒会員
半世紀ぶり
2グループに分け見学

(報告)編集委員長 谷口 楠佳

開学60周年記念のホームカミング以後、母校大阪商業大学を見学される校友の方々が多くなったと耳にした直後、昭和36年第9期卒業の方々が10月5日20名、そして翌年1月25日に11名の2グループに分かれ見学を予定されたとの連絡を受け、以後大学事務局と共に対応してまいりました。

第1グループは奈良県民生児童委員連合会の委員長をされている上森康弘氏ほか16名、第2グループは元三重県商工労働部長で校友会理事の中田勝仁氏ほか8名が参加され、共に約半世紀振りの母校訪問の方々で、母校の先進とその発展の姿に終始驚嘆の空気につつまれました。

百尺高き時計台と学歌に輝き、いまでは文化財指定に至った谷岡記念館での商業史博物館には、全員足を止めその豊富さと展示物の多さに感銘されていました。

皆さんの学生時代との比較においては、まさに図書蔵書数43万冊を誇る現在の「知の宝庫たる大図書館」には特に感慨深きものがあったと直感した次第です。

そして、2グループの方々とも自然との歩みは谷岡記念館東側に移設保存中の旧正門前へと向かわれ、カメラに向かってのほほえみにシャッターの音が続き、全ての方々から、そしてその表情に「来てよかった」、「母校の飛躍の姿に接することができてよかった」との声が私の耳に入った次第です。

参加された全ての方々におかれましては、まさにお元気そのものであり、母校出身のその誇りを一層心され、あの卒業の思い出深き正門を後にされました。私たち校友会は更に多くの母校見学の方々を心よりお待ちしております。

母校訪問の様子を写真にてご紹介いたします!



大/阪/商/業/大/学 母校 スポーツ便り



武道系クラブでは、空手道部が全日本大学選手権において男子団体組手3位、女子団体組手ベスト8の活躍、女子は春の西日本でも3位と健闘し新たな力として今後も注目です。男子も各学年バランス良く戦力が高まっています。

日本拳法部



空手道部

日本拳法部

は西日本大会3位、全国大会はベスト8と従来の力が十分には発揮できませんでしたが、23年度は新人も含めて大暴れしそうな予感がします。

ボクシング部は、リーグ戦1勝3敗の4位と振るいませんでしたが、秋には国民体育大会等各県代表としても活躍しています。

柔道部も関西学生大会等での戦績はベスト16まで、23年度こそまずはベスト8以上で全国大会出場を期待します。

ウェイトリフティング部



ウェイトリフティング部

は21年にまさかの全日本大学対抗での2部降格でしたが、22年度すぐに1部復帰を果たしました。また、関西学生では驚異の48連覇を達成。全国大会も含めて個人では多くの優勝者を出しています。

2年前から強化クラブとなった剣道部、まずは部員の確保からです。先輩方のご協力もよろしくお願ひします。

強化対象クラブ以外では**合氣道部**の岡本哲弥が全日本学生大会で優勝、**準硬式野球部**も阪神六大学リーグ6連覇達成など頑張りを見せています。全てを紹介できないことをどうかお許しください。

平成22年度の主な戦績

球技系 団体競技

球技系団体競技では、**バレーボール部**が久々に全日本大学選手権でベスト4まで進出しました。筑波大学との3位決定戦でもフルセットと善戦し、素晴らしい試合を見せてくださいました。23年度は大幅にメンバーに入れ替わりますが、今後も期待大です。



バレーボール部

硬式野球部は関西六大学秋季リーグ戦で2位と健闘、リーグ戦終盤まで優勝の可能性を残してくれました。また最優秀投手となった福山博之は横浜ベイスターズよりドラフト指名を受けてプロへ、今後の活躍にも注目してください。



硬式野球部

バスケットボール部は実力伯仲のリーグ戦で昨年から続けて2部降格の危機を迎えたが、入れ替え戦では根性を見せて善戦、1部残留を決めました。



バスケットボール部

サッカー部は2部Bブロックで通年成績5位の結果となり23年度での1部奪還に期待します。通年シーズン制の長い戦い、頑張れ。



硬式野球部

卓球部は春のリーグ戦で2部2位と1部リーグ昇格が見えてきました。強化対象クラブとなって2年目、部員数も増え、成果が見えてきました。



バスケットボール部

ソフトテニス部も春に1部リーグ復活、秋は苦戦しましたが入れ替え戦の末、残留を決めています。モンゴルからの学生の加入も刺激になっています。



バスケットボール部

スポーツセンターによる環境整備

スポーツセンターは平成22年度に設置3年目を迎えました。「面倒見の良い大学」として新たなプログラムも加えて、センターではクラブ活動のための環境整備事業を中心取り組んでいます。マイクロバスの運行もその一つです。関西圏内が対象ですが、各クラブ年間3~4回程度公式戦に利用できるようになりました。23年度はさらに利用回数の枠を増やしています。また、トレーニング室の整備に加えて簡単な処置が行えるトレーナールームを設けました。22年度からはトレーナーも2名となり週末の公式試合帯同などもより積極的に行ってています。1年間のトレーニング室の利用者数もついに1万人を越え、学生の意識も変わっています。センターでは、今までの施策とも合わせながら小さな取り組みの集積から、より大きな成果が得られるよう努めています。さらに、ベースボールマガジン社の編集によって大学スポーツの魅力を伝える冊子「come on College Sports」を作成し、多くの高等学校に配布するなど、従来のホームページの充実と合わせて情報配信事業にも力を入れています。是非ご覧いただきご意見を頂ければと思います。今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

校友顕彰制度

校友顕彰制度は、母校大阪商業大学の建学の理念である「世に役立つ人物の養成」に適う、優れた社会的貢献を果たした卒業生に対してその功績を讃え表彰されるもので、平成6年度から毎年表彰式典が開催されています。平成22年度は11月11日にユニバーシティホール「蒼天」にて盛大に開催されました。

母 校の名誉を大いに高揚させたこのたびの受賞者として、杉村寿夫氏(昭和32年度卒)が校友顕彰を、加藤好男氏(昭和54年度卒)が特別表彰を受賞されました。式典では受賞されたご両人がそれぞれ記念講演をされました。お二人のプロフィール及び主な貢献・功績についてご報告させていただきます。ここに改めましてお二人のご受賞のお祝いを申し上げます。

杉村 寿夫 氏

(元)奈良県議会議員
第81代奈良県議会議長
■昭和33年3月
本学商経学部
商経学科卒業(6期生)



主な貢献・功績

7期連続28年間奈良県議会議員として活躍。副議長、第81代奈良県議会議長も務められた。その功績により、藍綬褒章、世界平和大統領章・ラジオ・サンバウロ市、勲4等旭日小綬章、市功労者表彰を受賞された。

加藤 好男 氏

(財)日本サッカー協会
専任コーチ
■昭和55年3月
本学商経学部
経済学科卒業(28期生)



主な貢献・功績

プロチームのトップコーチ、日本サッカー協会専任コーチ、U17・20世界選手権大会代表の監督・コーチ、日本代表チームのGKコーチなどとして指導を行い、日本サッカー界の発展に大きな貢献を果たされた。

歴代校友顕彰受賞者一覧 (敬称略)

顕彰年度: 第1回(平成6年度)

氏名: 斎藤 明夫
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: プロ野球選手・野球界の発展

顕彰年度: 第2回(平成8年度)

氏名: 小嶺 忠敏
卒業年次: 昭和42年度卒
主な貢献・功績: 高校教員・高校サッカーワーク

顕彰年度: 第3回(平成9年度)

氏名: 佐々木 静子
卒業年次: 昭和28年3月修了
主な貢献・功績: 関西発の女性弁護士、参議院議員、勲三等宝冠章

顕彰年度: 第4回(平成10年度)

氏名: 新崎 盛善
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: 沖縄銀行頭取、金融界への貢献

顕彰年度: 第5回(平成11年度)

氏名: 伊藤 忠也
卒業年次: 昭和37年度卒
主な貢献・功績: 警視長・大阪府民の治安維持に貢献

顕彰年度: 第6回(平成12年度)

氏名: 雄谷 治男
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: 近畿交通栄誉賞、元校友会長

氏名: 湖中 齊
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: 東大阪商工会議所専務理事、地域振興に貢献

顕彰年度: 第7回(平成13年度)

氏名: 富村 一郎
卒業年次: 昭和33年度卒
主な貢献・功績: 登山家・登山活動を通じての社会貢献

顕彰年度: 第8回(平成14年度)

氏名: 木ノ本 妙子
卒業年次: 昭和31年度卒
主な貢献・功績: 西日本初の夫妻税理士、全国女性税理士連盟会長、藍綬褒章

顕彰年度: 第9回(平成15年度)

氏名: 中澤 勝男
卒業年次: 昭和34年度卒
主な貢献・功績: 全国宅地建物取引業協会連合会理事、建設大臣表彰、黄綬褒章

顕彰年度: 第10回(平成16年度)

氏名: 東田 政重
卒業年次: 昭和27年度卒
主な貢献・功績: 本学出身の教授、姉妹校の学長、校長歴任

顕彰年度: 第11回(平成17年度)

氏名: 玉木 敬
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: 教育委員会・教育庁・情報処理教育発展、校友会初代沖縄県支部長

顕彰年度: 第12回(平成19年度)

氏名: 山下 雄輔
卒業年次: 昭和41年度卒
主な貢献・功績: ホームセンター業界の発展

顕彰年度: 第13回(平成20年度)

氏名: 高谷 博之
卒業年次: 昭和33年度卒
主な貢献・功績: 中和広域消防組合消防長、瑞宝小綬章

顕彰年度: 第14回(平成21年度)

氏名: 菅原 靖之
卒業年次: 昭和34年度卒
主な貢献・功績: 校友会三重県支部長、地域医療の発展・社会活動に貢献

氏名: 鶴羽 樹

卒業年次: 昭和38年度卒
主な貢献・功績: 東詔一部上場企業代表取締役社長

氏名: 岡山 恭崇

卒業年次: 昭和53年度卒
主な貢献・功績: バスケットボール日本代表、地域・社会活動に貢献

顕彰年度: 第15回(平成22年度)

氏名: 杉村 寿夫
卒業年次: 昭和32年度卒
主な貢献・功績: 奈良県議会議長、藍綬褒章、世界平和大統領章・ラジオ・サンバウロ市、勲4等旭日小綬章、市功労者表彰

文部科学省も高い評価

一層進むフィールドワーク重視の教育

母校大阪商業大学には7つの魅力があり、その一つに「実学教育」が挙げられます。

文部科学省も高く評価し、マスコミにも大きく報じられてきました。この実学教育の柱の一つがフィールドワーク(実社会現場での活動)であります。

このことに関しては、当会報No.10では谷岡一郎学長のご挨拶の中で、No.11では片山隆男副学長の「面倒見の良い大学を目指して」の文中で、その一部をお示しいただいてきたところです。

このフィールドワークは「河川環境保全」「高齢者の就業支援」「地方鉄

道活性化」「中小企業の起業家精神」そして「地域活性化プログラム」など、9つのテーマに及んでいます。

このたびの東大阪市教育委員に就任された酒井洋准教授が「みんなで楽しむまちづくり」をテーマに講演されました。講演の意義は大きく、演習の内容たる商店街の活性化対策の高い効果は今大きな話題となっており、100余名満席の参加者は熱心に聞き入っておられました。

今や母校は「地域と共に、地域の中へ」。校友会もこのことを重視し、共に考えてまいりたいと思っています。



我が国初! 母校で囲碁「十段戦」対局

大盤開設会場へ市民集う

◆平成23年3月3日
◆ユニバーシティホール蒼天にて



建学の理念である『世に役立つ人物の養成』。この理念を支える4つの柱の一つに「楽しい生き方」があり、地域との関係を重視されている母校にとっては広く市民にも示せる理念と考えます。今年の3月3日、産経新聞主催の囲碁タイトル戦「森ビル杯 第49期十段戦五番勝負」が大阪商業大学で開催され、いま囲碁の世界で最も話題となっている東大阪市出身の井山裕太名人と張栩十段が対局されました。

対局説明の新聞記事には「大学の校内での対局は前例がない」とした後で、「対局場を提供した大阪商業大学は碁とのかかわりあいが大きい。授業では『知的ゲーミング演習』があり、15回の開講のうち10回程度が碁に当たられるという。アミューズメント産業研究所も開設されている」と採り上げられました。

尚、市民92名が来校され大盤解説をたのしまれました。

謹んで震災のお見舞いを申し上げます

このたびの東日本大震災により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。
一日も早い復旧と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

大阪商業大学校友会
会長 高岸 哀治
副会長 榎 信晴
副会長 宇野 幸三
副会長 谷口 植佳

みくりやの風

地名はその地に刻まれた歴史であり、由来は様々であるとしても、有史的背景のもとに命名され、今に伝わっているものが多いと言われています。

その地名に「御」のつく、「御殿場」・「御津」・「御坊」等がよく知られ、隣接の大東市にも「御領」・「御供田」があつて、歴史の伝わってくるのを覚えます。

そこで「みくりやの風」の「御厨」という地名を一考してみました。

東大阪市文化財課によれば、「平安から鎌倉に至る時代、この地域は京の朝廷とは大きな関わりがあった」とされ、さらに「その昔、周辺は海から湖へと変化した当地、小魚・貝類・れんこん等を献上、天皇家の台所を守った故もあり、地名と共に大きな権限も与えられていた」と伝わっているとのことでした。
私たちはこの地命名の意の大なるを知り、いつまでも心に保存したいと考えています。

校友会では当会報で、そして「みくりやの風」にて、母校の情報を全国校友会員各位に送ってまいりました。
今号ではまず、次の「御厨祭」には「是非この際にご来校を」のご案内です。

今年は数えて第60回。記念すべき大阪商業大学挙げての御厨祭、今年度も秋、10月29日(土)を中心に28日から30日の間盛大に開催されることになりました。

母校一層の発展その全姿を、地域との一体化への進化、学生諸君の若さと商大力、そして我が校友会も参加する記念すべき御厨祭に是非ご来校のうえ、母校に、そして「御厨」に触れて下さい。心よりお待ちしております。

平成21年11月、開学60周年記念事業のホームカミング以来、母校訪問が多くなっていると耳にします。

今号「PHOTOだより」にも、校友会にご相談があり実現した昭和36年卒会員の皆さん二つのグループによる母校訪問について報告していますが、平日平素のご訪問もお待ち申しあげておりますので、是非ご相談くださいますよう追記いたします。

当会報は第8号から大改革を行い、以後定期発行にて母校発展、飛躍の姿をお示してまいりました。

特に最近では教育方針と内容について学長・副学長のご挨拶に含めご発表いただきましたが、「実学教育」・「座学からフィールドワーク(実社会現場での活動)」など数多き前進内容のことなのです。これらについても今号にて随所に含めていますので是非お読み下さい。

最後に、このたび実施された「東大阪市民ふれあいまつり」のこともお伝えさせていただきます。

この催しは東大阪市民自らが計画し、自らの手づくりにて年一度5月母の日(5月8日)に実施され、委員長は毎年交代にて選出され、今年は谷岡一郎大阪商業大学学長を市民は選ばれたのです。尚、財務部にも校友会役員三名が選ばれ、高岸会長が部会長の大役の責任を果たされ、母校からも、学生課・学生諸君・高等学校含め大きくふれあいの場として42万市民が参加し、盛大に行われました。

特記すべきは、この祭りが東日本、東北地方被災の皆様に物心両面大きく支援をさせていただく結果とも相成り、ここに改めまして一日も早い復興を心よりお祈り申しあげ、今号の「みくりやの風」の締めくくりとさせていただきます。

平成23年5月25日

会報編集委員長 谷口 植佳
(校友会副会長)



東大阪市民ふれあいまつり

●大阪商業大学校友会会報「校友」編集委員

□発行責任者: 高岸 哀治(校友会会长)
□編集委員: 林 俊春(校友会常任理事)
□相談役: 宇野 幸三(校友会副会長)
□編集委員: 神戸 直樹(校友会常任理事)
□編集責任者: 谷口 植佳(校友会副会長)

—ご意見などお便りは下記宛にお送り下さい—

〒577-0036
大阪府東大阪市御厨栄町1丁目7番22号
E-mail: daishodai-koyu@royal.ocn.ne.jp
大阪商業大学校友会



校友 第12号

発行: 平成23年6月
発行人: 高岸暎治

大阪商業大学校友会

〒577-0036 大阪府東大阪市御厨栄町 1-7-22
電話: 06-6782-7243 FAX: 06-6782-6411
E-mail: daishodai-koyu@royal.ocn.ne.jp

HPアドレス <http://www.ouc-koyu.org/>